

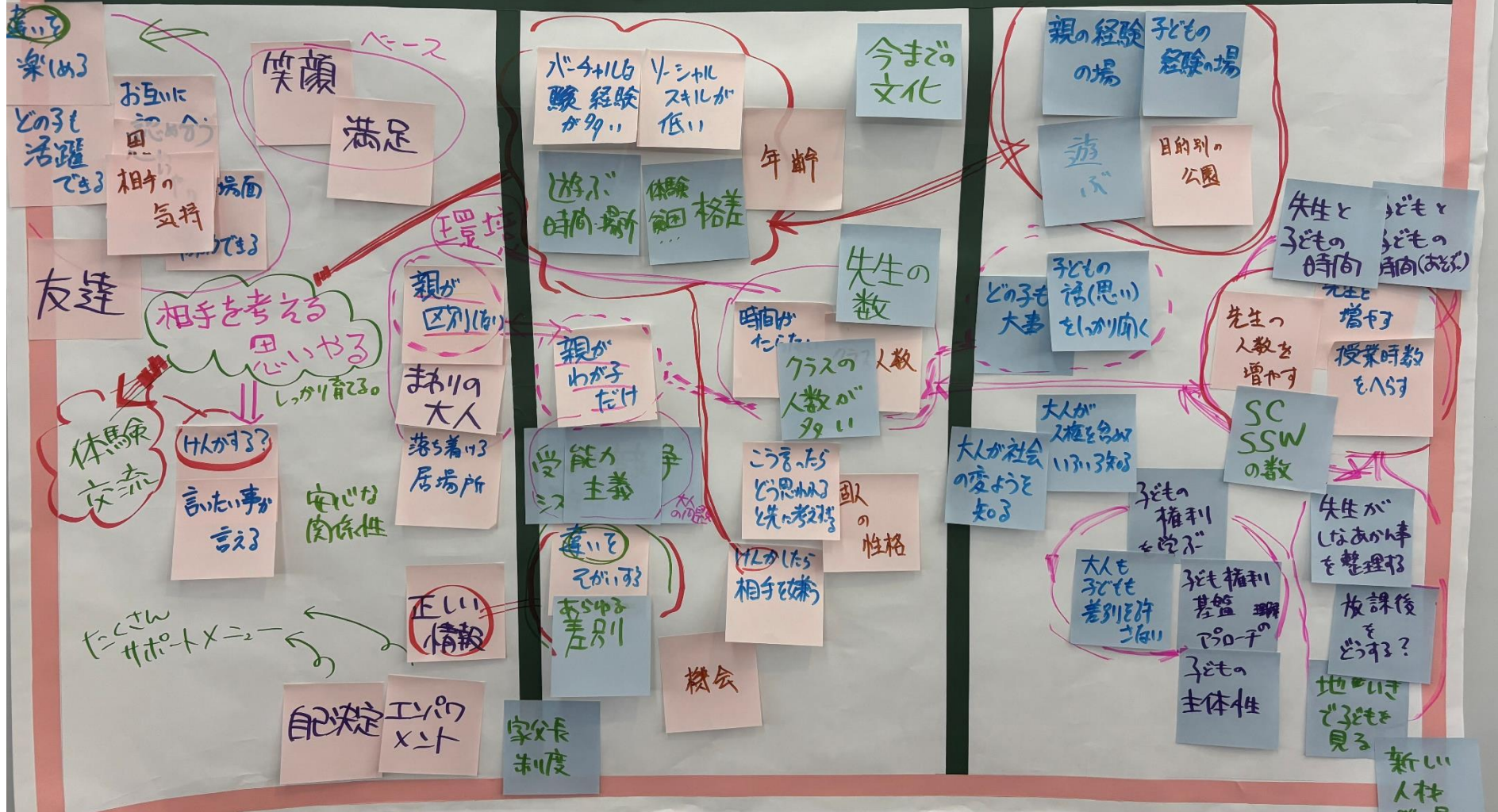
# 第1回ワーキング部会 A. こども・学校 ワークシート

みんなで築こう 人権の世紀  
-考えよう 相手の気持ちを 育てよう 思いやりを  
大塚正徳 藤原 啓子 藤原 啓子 藤原 啓子  
人権教育実践者大塚正徳ネットワーク協議会

学校でめざしたい  
人権教育・啓発の目標(姿)

目標の実現を阻んでいると  
思われる障壁(原因、背景)

取り組むべき課題



## <グループ発表>

1班は前回の話を思いだしつつ、新しいキーワードも出しながら、学校でめざしたい人権教育・啓発の目標の姿について話しました。

前は「笑顔」という言葉がすごく出ましたが、「笑顔」を目標の姿にすることについて、一人ひとりにとって「こどもの笑顔」のとらえ方はすごく違うと考え、「こどもの笑顔」というと、どんなものを思い浮かべますか？という話から入りました。

どうやったらこどもが笑えるのか、笑顔になれるのかってところで、こどもが満足している状態や、環境のこと、友達との関係性のなかで協力できること、一人ひとりがいろんな場面でその子なりの活躍ができること、人との違いを楽しめることなどが出ました。

また、「思いやる」という言葉も出ましたが、人権問題を思いやりで解決しようとする個人の問題にしてしまう懸念があります。社会の構造の中で考えることが大事であり、やっぱり他者視点というか、人との関係性を考える中で、「1人やったら笑顔になる」というより、「いろんな環境や人間関係の中で、笑顔になっていけるのがいいね」ということで「相手のことを考えられる」ことを大切にしようなど、いろいろな意見が出ました。

そこには、環境を整えることが大事だから、自分で決めたり、力を発揮したりするためには、学校の中だけじゃなく、それを支えるたくさんのサポートメニューが要るし、こどもたちは、正しい情報を得ていく必要があるねという話をしました。

そして、それを阻む障壁は、親の考え方をはじめ、能力主義、受験のシステム、競争させられる社会というワードが出てきました。また、相手のことを考える、人との関係性を考えるという時に、こどもたちのソーシャルスキルが得られる「人との交流・体験の機会」が圧倒的に減っていること。それは遊ぶ時間も場所もないし、いろんな体験や貧困の問題で格差があるし、年齢でも差が出てくること。

環境で言えば、先生の数が足りないし、先生がしなくちゃいけないことに対して、学校で使える時間も足りない。1クラスあたりの生徒数が多いという意見も出ましたが、これは「少なすぎても、関係性が固まってしまってしんどいこともあるよ」って教えてもらいました。

他にも、相手のことを考え過ぎて気を使ってしまうこともある、っていうのも出ていましたし、正しい情報がなくて、違いがあることで排除・差別することも、現実起きているなという話もありました。

取り組むべき課題としては、親もこどもも体験・経験が足りないうところで、それができる場所や時間が必要。目的別の公園とか。とにかく、いっぱいこどもが公園で遊んでいても、学校に電話がかかかっていかないような公園。こどもがしっかり遊べる体験ができれば、だいたいスキルアップしていけるのではないのでしょうか。

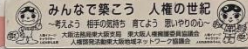
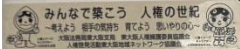
学校の中では、SSW(スクールソーシャルワーカー)とかSC(スクールカウンセラー)が増えているとのことなので、それによって「先生とこども」とか「こどもとこども」の時間が増やせるように何かできないか。また、保護者が「自分のこどもだけしか見えない」というのではなくて、保護者も「こども」という概念で「どの子ども大事」という意識や、こどもの話や思いをしっかり聴くこと。それは親だけじゃなくてもいいよね、そんな人がたくさんいたらいいねと。

そういった社会をつくっていくなかで、「こどもの権利」にすごく理解を深めていけないとあかんって話になりました。大人もこどもも差別を許さないなど、いろんな課題があるので、そこを解決するためのベースになるような、人権感覚とか、意識を育てられたらいいな。

あと、ワーク外で出た話ですけど、研修のあり方について、あまりお金のかからない「いい研修」があるよってことを、先生たちが一生懸命探してやっている、という話もありました。自分で見つけて参加する研修では、お金がかかる・かからないで、一定線を引かなくちゃいけないとのことで、そういった有益情報が先生たちの間で入手し合えるようなプラットフォームがあったりするようなので、ちょっと補足してもらいます。

お金の出どころがなかなかないので、引っ張っておいでっていうこと。いろんな知識を先生が研修することもいろいろありますし、こどもらが専門の方から話を聞くこともすごく大事だと思っているので、その辺を大事にしているって話をしました。以上です。

# 第1回ワーキング部会A. こども・学校 ワークシート



学校でめざしたい

人権教育・啓発の目標(姿)

目標の実現を阻んでいると

思われる障壁(原因、背景)

取り組むべき課題

子どもが  
権利の主体  
であることが  
確立している  
学校

子どもが  
自己決定の  
力を育む  
人権教育

子どもの  
権利を  
守っている

自分の権利  
をたたく  
知る

すべての  
子どもに  
学ぶ権利を

様々な権利  
について学ぶ  
機会がある

相和気持で  
差を受け  
とめられる

相和事  
を知り  
力をつける

一緒にやる  
行動出来る

自分の気持を  
正直に話せる  
仲間がいる

仲間と  
つながる

対話  
する

元気で楽しく  
学習出来る  
教室がある

差別する  
側が  
学ぶ

ちがいを  
認めよう

インパクト

正しい  
情報(ほう)も

おいしいこと  
をおかして  
いえる

レジリエンス  
ねほり  
強く  
ヒコス

大人が  
権利を  
知らない

おとなが  
ルールを  
きめざる

大人が  
おとな  
子どもを  
信じてない

知らない  
知りたじみ

学ぶ  
機会

子どもの  
権利侵害

教師にも  
ゆとりが  
ない

保護者と  
学校が  
つながりにくい

学校と地域  
とのつながり

おとなが  
少ない

学校が  
小さい

クラスの  
人数が  
多い

子どもに  
時間割の  
ゆとりが  
少ない

おとなの  
環境が  
整備されてない

学べる環境  
の様子

学校  
に行けない  
人がいる

社会が  
差別的

社会が  
差別的  
影響

刺激の  
ある情報  
を止められない

人  
を  
信じ

・学校のなやみの共有

・おとなの人権意識を  
育む

・学校と地域の連携

・人権学習の充実  
(体験型・主体的に学ぶ)

・情報に対して  
考える たちどまる  
正しく知る  
・研修内容の充実(自分ごととして)

## <2班 グループ発表>

1班の話とすごく似ているなど思ったのは、こっちの班でも、こどもの権利のこととか研修のあり方等は最後話になりました。

学校でめざしたいこどもたちの姿とか目標のところでは、正しい「こどもの権利」を知ることが一番。これは、こどもも大人もです。

大人も自分が小さいときにそういう教育を受けていないので権利を知らない大人がいる、その大人が教育を行うことで、「こどもの権利」について知らないのに教えるとか、教えられないことがあるから、こどもたちが「自分たちは権利の主体者」という意識のないまま、また、言いたいことも言えずとか、こどもの声も指導できないって課題になっているのではないかな？そういう背景があるのではないかな？という話になりました。

もう1つは、仲間と繋がるとか、一緒に頑張れるような友達とかをつくることも、大事です。

でもそれを阻んでいるのは、先生らにゆとりがなくて、そういう繋がりをつくる学習をしていないとか、なにかこどもたち同士の繋がり方も知らないとか、クラスの人数がさっき言ったみたいに、多すぎるとか、少なすぎるとかもあるので、そういう繋がりをつくることも大事。そういうことを学べる環境で、やっぱり先生もゆとりがないので、人もつけてほしいとか、お金もつけてほしいという話になりました。

あとはこんな力をつけてほしいよね、というところで、エンパワーメントされることとか、新しい情報を知ることとか、レジリエンスとか、一緒のことが出ているなど思いました。

それも、やっぱこの学校教育の中でつけるなら、人も時間もお金も要るかなという話になって、取り組むべき課題のところでは、先生が悩みを共有することが、何かいい方法がないかなって話になったのと、こどもの権利のところ

いうと、やっぱり大人の人権意識を育む、なかなか大人を変えることは難しいのですけども大人を変えないと、こどもも変わらない。

変わらないこどもが大人になったときには、また固まった大人になってしまうというその悪循環をどこかで断ち切らないとあかん、という話になりました。

学校だけじゃなくて、やっぱり地域との連携で、地域の方の出前授業とかだといろいろと出会いから学ぶことも多いし、そういうところでこどもたちの生き方を広げていくこととか、繋がりとか、いろんな力をつけるためにはこの人権学習を充実させることと繋がってきますが、自分で体験してよかった！楽しい！と思えるような人権学習ができればいいかな。

最後はもうやっぱり今の社会は、情報に対してなかなか考えずに全部受け取ってしまって、それが正しいかどうかということも、こどもたちは見極める力がまだまだ弱いなという話になったので、そういうふうなことを正しく知ったり、ちょっと立ち止まれるようなことで、取り組めることはないか、これを次回話したいという話になりました。

以上です。